

令和 6 年度政務調査研究活動実績

議員名 土森 正一

高知の教育の充実

- ・教員の働き方改革について
 - 働き方改革の状況と今後の取り組みの調査研究
 - 教員個人に配慮した人事異動のあり方についての調査研究
 - 公務支援システムの導入により教員の負担軽減の状況を調査・研究
 - ハラスメントの抜本的な対策を図ることについて
- ・家族について
 - 学校教育の中で家族の価値や意義を教えることについて
- ・高知の道德教育について
 - ICT の活用で道德教育の授業について調査・研究
 - 国や郷土を愛する心や態度を育む道德科の授業の調査・研究
 - 子供達に、世の中が変わっても人として大切にしなければならない、変わらない価値が存在することを教える日本の道德教育の調査・研究
- ・中山間地域の教育振興について
 - 地域の課題について県境を超え、地域の学校が集まり、中高生が開くシンポジウムの開催について、また開催することで人材育成効果について調査・研究
 - 県立学校の魅力化・特色化を目指すことで現れる効果について
 - 高校魅力化コーディネーターについて
 - 幡多地域教育協働コンソーシアム会議の今後の取り組みについて調査・研究
 - 探究心溢れる教育の充実に関することについて
- ・デジタル教育について
 - デジタル教育のこれまでの成果の調査・研究
 - メディアリテラシーを育む教育の研究
- ・グローバル教育について
 - 公立高等学校の海外留学の充実に向けた取り組みの調査研究
 - 「トビタテ！留学 JAPAN」拠点形成支援事業の調査・研究
- ・国旗・国歌について
 - 国旗、国歌に対する正しい知識と尊重する態度を養う教育について
- ・高知の歴史、偉人を通じた、郷土愛を育むふるさと教育充実の調査、研究。
- ・不登校の未然防止についての研究
- ・高知がふるさとに。「地域みらい留学」「こうち留学」を活用し地域外から入学した子ども

もたちと、地元の子どもたちが学ぶ事により多様な価値観、社会性の育成、地域の活性化について

スポーツで高知を元気に

- ・アマチュアスポーツの合宿、女子ソフトボールリーグ、ソフトボール国際大会誘致に関する事について
- ・幡多 DMO スポーツツーリズム推進について調査・研究
- ・スポーツを通じて、交流人口の拡大と地域の活性化、子どもたちの競技力を向上に、関することについて
- ・スポーツ施設の整備について調査・研究
- ・インクルーシブなスポーツ活動の推進を目指してパラスポーツの周知に努める

次世代の高知を創る

- ・県庁 DX の効果を県民が実感できる取り組みの調査研究。
- ・デジタル人材の積極活用と育成に関する調査・研究
- ・高知県庁のスマートオフィスの成果と課題について調査・研究
- ・市町村と連携した行政事務のデジタル化推進(RPA・AI・ICT)の調査研究
- ・リスクリテラシー教育などスキルアップ教育を充実する為の調査研究。
- ・自治体と民間活力で地域の課題解決に向けて連携、共同から共創に向けた取り組みの調査研究
- ・「しまんと海藻エコイノベーション共創拠点」で海藻産業を中心としたイノベーションにより持続可能な地域産業と地域社会の創出に関する事について

観光で高知を元気に

- ・関西・高知経済連携強化に関すること。
大阪・関西万博、ワールドマスターズ関西、IR、等、大型プロジェクトを有効活用し
関西アンテナショップとさとさをプラットフォームにスーパーローカル「極上のいなか高知」をPRすることで、高知への呼び込みに関する事の調査研究
- ・幡多地域の6か市町村を軸とした歴史・人・自然・食・文化を中心とした、体験型観光の充実に取り組む事で、サステイナブル（持続可能）ツーリズムの調査・研究
- ・インバウンド観光の調査、研究
(キャッシュレス・多言語対応・等)
- ・高齢者や障がい等の有無に関わらず全ての人が安心して旅行ができるユニバーサルツー

- ・リズムに関する事の調査研究
- ・予土線を活用した観光商品の整備について
- ・関係人口の交流拡大について
 - ノマドワーカー(デジタルノマド)の受け入れ施策について調査研究
 - ノマドの聖地と言われるタイ国との空港路線整備に向けての調査研究
 - ふるさとワーキングホリデーの活用に向けた調査研究

女性と子育てお年寄りに優しいまちづくり

- ・子育て世代の子どもへの支援の充実に向けての調査、研究
- ・子育て世代に優しい社会環境の整備について
 - 子供を産み、育てたいと願う夫婦の希望を叶えるため、産後ケア事業の拡充、不妊治療への支援を促進、地域参加型の子育てしやすい地域づくりに関する調査・研究
- ・性別的役割分担意識の解消
 - 男性育児休業の取得、共働き・共育での生活スタイルを支える取り組みを促進し、性差関係なく家庭でも仕事でも活躍できる高知県を目指し、性別的役割分担意識の解消に関する事について
- ・高知型地域共生社会の充実について
- ・医療・福祉・介護の人材育成、人材確保、処遇改善などについて
 - 訪問介護サービス提供体制の確保に関する調査・研究
 - 嶺北地域 4 市町村の自治体の大きな地域から訪問介護サービスを受ける取り組みから見えてきた成果を他地域へ広げる事についての調査・研究
 - 高校生の介護資格習得から就労体験までの支援をする事についての調査・研究
 - ケアマネジメント業務に集中できる環境の整備による人材確保の取り組みをする事についての調査研究
 - 介護支援専門員の研修負担の軽減について
- ・看護師の人材確保について
 - 復職支援の取り組みに関する事について調査・研究
 - 機能強化型訪問看護ステーションの設置支援に関する事について調査、研究。
- ・在宅育児手当などの支援制度の導入について

障がい者に優しいまちづくり

- ・聴覚障害者の現状と支援、手話言語条例制定後の支援などの取り組みについて調査、研究
- ・障害者就労支援に関することについて調査研究
- ・農福連携に関することについて
- ・土福連携(建設)林福連携(林業)水福連携(水産)の調査・研究
- ・インクルーシブル教育の調査・研究

南海地震トラフ地震対策・台風・豪雨災害治水対策

南海トラフ地震を軸とした地震対策について

能登半島地震を踏まえた対策

緊急輸送道路の盛り土の脆弱な部分を把握し国と連携した対策について調査研究

地震後の道路啓開計画の実効性を高める事について

災害ボランティア活動支援に幡多地方など遠方における人的支援のためのベースキャンプ設置計画を取り入れていく事と県内外のボランティアの受け入れ計画について調査研究

地域住民と連携したボランティアセンターの立ち上げ及び運営について調査研究

高知県から被災地に赴くボランティア団体等への助成制度創設について調査

事前復興まちづくり計画の策定に向けた取り組みについて調査研究

災害ケースマネジメントにおいて関係団体と連携した支援体制の整備について

南海トラフ地震臨時情報を受けて課題の検証をする事について

避難所について

- ・災害時の要支援者対策について関する調査、研究
- ・福祉避難所についての調査、研究
- ・避難所の夏の高温対策など県境整備の必要性について
- ・流域治水、内水対策に関する調査研究
- ・線上降水帯における大雨災害についての調査・研究
- ・激甚化・頻発化する災害の対応について

インフラの充実と有効活用

- ・地方道と生活道の整備状況と進捗状況の調査に関することについて
- ・公共交通における土佐くろしお鉄道の在り方についての調査研究
- ・予土線路線の存続に向けたあり方について調査研究
- ・防災・減災対策に関する事について
- ・幡多地方での災害に強い構想道路の計画について調査研究

- ・半島振興法を受けて幡多地方の防災対策強化について調査研究
- ・高速道路早期延伸、四国8の字ネットワークに関する調査研究
- ・国土強靱化の継続の取り組みの調査研究
- ・入札制度の関する事について

次世代の育成で新しい高知を創る

- ・市町村、県を越えた、中・高生が地域の課題を軸に様々な分野を多角的に考えていき、その課題を人工集中地域の地域外の同世代と意見交換、交流でする事で、今までと違った視点に接し刺激をもらうことで、故郷への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知を切り開く人材育成を推進する事について調査
- ・県内での起業や若年層の雇用の受け皿となる企業を誘致するとともに、UIターンを含めた県促進について調査研究
- ・若者を中心とした人材確保のため、産業振興施策と連動した移住促進策を推進する事について
- ・本県へのインターンシップの取り組みに関する事について
- ・伝統建築と技術学校に関する事について

住みやすいまち高知を創る

- ・物価高等対策に関することについて
- ・関西・高知経済連携強化に関することについて
- ・人口減少対策強化に関することについて

高知県の将来を左右する人口減少に取り組むべき最重要課題と位置づけ関連する施策の強化について調査・研究

- ・中山間地域再興について

中山間地域の暮らしを支える生活環境の整備や、多様なニーズに対応できる医療福祉サービスの充実について調査・研究

若い世代が魅力を感じ、地元で就業しやすい環境を整備し、収入拡大につながる取り組みの調査、研究地域の若い世代の結婚や出産を叶える施策や、安心して子育てできる環境の整備のための調査研究

- ・商店街の振興について

AIカメラを使った、時間帯での人の流れ、年齢構成、性別などをデーターを蓄積し

活用することで商店街の振興に繋げる、また個店に落とし込む事によって、販売拡大に取り組む、また「歩いて楽しめる街（ウォーカブルシティー）の概念で人と人が集える場所、集積地を作ることで多角的に商店街の活性化についての調査、研究

- ・未婚化についての調査研究
- ・結婚を望む方への希望を叶えるため、出会いの場の創出、結婚支援の推進を官民一体となった取り組みについて

農林業漁業について

- ・物価高等対策に関することについて
- ・木材産業の振興に関すること
スマート林業で生産性の向上を図り、木材産業のイノベーションで国内林業の振興について調査・研究
- ・中小製材業・県産材ブランド材の振興に関すること。
- ・自伐型林業の取り組みに関すること。
- ・みどりの食料プロジェクトについて調査・研究
- ・高知が誇るデジタル技術で生産性の向上、持続可能な生産方式の両立で振興を図ることについての調査・研究
- ・四万十産ぶしゅかん・栗・米ナスなど特産品の充実を通じて中山間の農業の活性化の調査研究
- ・漁業での産地加工体制の強化、流通・販売の強化、担い手の育成。漁業生産の構造改革で魅力的な水産業を創出するための調査研究
- ・農林漁業の取り巻く新しいサプライチェーンの構築についての調査、研究
- ・四万十牛のブランド化、鮎ブランドなど産業振興に関する調査研究。
- ・四万十市における新食肉センターに関すること。
新食肉センターの施設整備について調査研究
事業費の再検討に関する協議をする上での県としての取り組みについて
- ・中山間の鳥獣被害対策に関すること
- ・定置網漁業に関する事について

新型コロナウイルス感染症 5 類以降後について

- ・コロナ禍で影響を受けた事業者の支援に関する調査、研究
- ・コロナ後の社会構造の変化に対応に関する事について

脱炭素・SDG s 自然環境の保全の取り組みについて

- ・高知県の特性を生かしたグリーン化関連産業の開発についての調査研究
- ・あゆ王国高知振興ビジョンの充実に向けて調査・研究

- ・四万十川の環境保全と生態系の再生について調査研究
環境改善に資するあらゆる取り組みの調査研究
- ・四万十川の漁業を守っていくための支援について調査研究
- ・しまんと海藻エコイノベーション共創拠点について
共創拠点を実現していく上での県の役割について調査研究
共創拠点を実現していくために産業振興計画に取り入れることについての調査研究
- ・ブルーカーボンの取り組みについて調査研究
藻場の維持、拡大に向けた取り組みの調査研究

グローバル化の取り組みについて

- ・令和6年度高知県・安徽省友好提携30周年記念事業 *別添資料
- ・安徽省大学生高知県訪問ランチ交流会
- ・ミクロネシア国シミナ大統領訪問団高知県・四万十市受け入れ
- ・台日サミットin台南参加 *別添資料
- ・幡多地区台湾視察団参加 *別添資料
- ・韓国全羅南道議員団との交流会
- ・韓国旅行業関係者及び大韓航空ファムツアー御一行との交流
- ・高知県日中友好議員連盟を通じての交流拡大について
- ・高知県日台友好議員連盟を通じての交流拡大について
- ・高知県日韓友好議員連盟を通じての交流拡大について
- ・ミクロネシアなど友好国との発展的交流の調査研究。
- ・グローバル戦略の中で、諸外国との発展的交流の調査研究。

高知県・安徽省友好提携30周年 記念訪問 報告

10月13日～16日の日程で中国安徽省に高知県知事を団長とした訪問団の1人として参加させて頂きました。

上海では上海高知県人会の皆様と懇談をし、中国の経済の現状や、高知の産業を中国に輸出の可能性などを議論できました。高知の皆さんなので、帯屋町も出てきたり、故郷を思いながら、和やかな雰囲気でした。

そして高速鉄道に乗り安徽省合肥市へ、安徽省人民政府執行部への表敬訪問と30周年記念レセプションに参加し、これまでの高知県・安徽省との交流に双方が感謝し、今後の交流に向けては、1つ目は、人材交流、大学生交流、スポーツ交流。2つ目は、経済交流。3つ目は文化交流でお互いが発展し合う交流を続けていきたいということを確認することができました。また、企業訪問では現代的なハイテク種子企業と音声および人口知能分野で広く知られている企業を訪問、どちらの分野も世界の最先端を走っており、訪問団からも多くの質問が出るなど、とても発展的で有意義な視察訪問をすることができました。

また、安徽省博物院、安徽省・高知30周年記念書道展、合肥植物園の視察では、博物院では安徽省の長い歴史に触れることができ、安徽省が中国大陸でいかに山、川、人に恵まれたとても住みやすい地域であることがよくわかりました。書道展では高知県の書道家3人の作品も展示し、45歳までの若手の書道家の作品を展示、また、実際に書道を書いてくれるパフォーマンスもあり、訪問団を暖かく迎えてくれました。

また、私が三国志ファンと知った、安徽省のスタッフが三国時代の武将である、張遼のお墓にも連れて行ってくださり、その

ご配慮に感激いたしました。合肥植物園ではまず広い公園を車を使って視察し、高知と安徽省の林業分野の交流の歴史をパネルを使って丁寧にご説明いただきました。

安徽大学では4万9千人が学ぶキャンパスを訪問し、国際交流を積極的にしていき、また日本語教育にも力を入れているということで、1994年に高知大学・高知工科大学との友好関係を結んでおり、これまで以上の連携と双方の人材交流をしていけるようにすることを確認しました。また学生の60%以上が安徽省に残っていることを話されていることが印象に残りました。

視察訪問を終えて、安徽省は6100万人の人口を抱え、高速鉄道や、合肥ハイテク開発区など、劇的発展を遂げていました。30周年を迎え、これまで続けてきた友好提携の交流をつなげていき、人材、経済、文化的交流を進化させ新しい時代に高知県・安徽省双方が発展していくことができるようになっていければと強く感じました。高知県・安徽省友好連携30周年記念訪問団に参加させて頂き、大変勉強になり、有意義な視察訪問となりました。今後とも高知県・安徽省双方の交流促進と発展の為、そして高知県が地方の自治体としてきらりと光る、自治体となる事を目指して全力で頑張っ参ります。

幡多地区台湾視察訪問参加報告書

令和7年2月14日～17日高知県幡多地区5ヶ市町村（四万十市・宿毛市・土佐清水市・大月町・三原村）で、花蓮県・宜蘭県・台北を訪問、花蓮県、花蓮県富里郷、瑞穂郷、宜蘭県蘇澳鎮南方澳、台北城市科技大学等を視察、台北にある日本台湾関係協会を訪問視察し、幡多地域が広域的に連携することで台湾での交流が、観光交流、経済交流、文化交流を活性化することで、友好交流の拡大や経済交流を発展させることを目的に、台湾南東部地域を視察、調査をした。

2月14日 花蓮日本人会会長 溝淵剛 花蓮県農業部、との交流会

台北松山空港到着後、花蓮県花蓮市までバスで向かい、花蓮県日本人会長、溝淵剛様の経営する、日本料理店「芝間開門」を訪問、溝淵会長と、花蓮県農業部の陳部長も同席し、今後の交流日程など打ち合わせをしながら夕食会を開き、和やかな中での台湾1日目となった。

2月15日 花蓮県政府 表敬訪問

一口メモ

ガイドの方が、花蓮地震発生で、客が来なくなった。前日の街は人が少なかった。

（本当はもっと観光客が溢れている。タロコ溪谷（世界遺産）は復旧に6年かかると言われているとおり、観光へのダメージが深刻で影響を心配している。

・台湾の文旦生産量は約8万2千トン。ちなみに日本は1万1千五百トンです。そのうち花蓮県はシェア24%・高知県はセシェア95%となっています。

花蓮県政府を訪問し、花蓮県長の徐県長以下執行部の皆様にお迎え頂き、意見交換が始まりました。訪問団団長である中平四万十市長から、「昨年発災した花蓮地震でお亡くなりになりました皆様と、被災した皆様にお悔やみとお見舞いを申し上げます。地震後の対応の速さにびっくりしました。また、地震のすぐ後に花蓮から四万十市はじめ、幡多地域に訪問視察にお越しいただき、ありがとうございました。そのご縁で本日の訪問となりました。相互交流のいい機会になればと思います。」

徐県長からは「たくさん皆様に、花蓮にお越しいただきありがとうございます。春節の後のということで今、素晴らしい季節であります。

花蓮県は13市町村に33万人が住んでいます。面積の大きい県です。有機農業が盛んな地域で知られています。海岸線は140km太平洋に面している県です。今から120km先の富里郷に行くと聞きました。花蓮では1番南に当たります。瑞穂郷でははっさくや文旦など柑橘類が有名であり、生産ラインも新しくした。富里郷の後、視察していただく予定です。

花蓮県は、有機農業の首都と言われている。台湾のお米の40%は花蓮産である。13市町村に全て名産品がある。柑橘類の文旦などにも有機農業を推奨しています。有機農業に転換や有機農業の開発などに補助が出ており、環境にやさしい有機農業を目指しています。花蓮は有機農業促進地域となっています。又、台湾の野生を守るとして固有種を守る運動もしています。学校では、原生種の魚の研究もしています。

食育については、学校の中で、有機とはどういうものか、肥料はどうかなどと言う、有機農業の概念を植え付けています。給食では、米、野菜など花蓮産の農産物を取り入れています。漁業では、定置網漁業も盛んで、3つある。環境にやさしい漁業を推進しています。また、世界で4つしか採取場所がない海洋深層水を採用し、産業としている。農業教育、農業体験旅行、各地の名産をめぐる旅行など農業、環境、を組み合わせた観光を推進しています。有機農業に関する世界規模の会議にも参加し3月には日本各地で、シンガポール、イギリスにも有機農業のPRを予定している。富里郷では1月～11月にかけて藁で作った、アートフェスタを開催している。そこにもお寄り下さい。と紹介していただきました。それぞれの首長が挨拶をした後、徐県長はまず、5つの市町村から足を運んでいただき、大変感動している。高知県とも交流をしていきたい。今の政策として、子育て世代にも力を入れている。0歳から2歳までは保育料無料、給食も無料です。中高大では、子供達が、夢を持てるような支援をしている。起業、スタートアップが出やすい環境を支援する事にしています。中高生10人、アメリカ留学 全額補助 10人をそれぞれ違うところへ送り込みます。大学ではドイツの工業大学に3人送り込んでいます。現在世界中が温暖化になっておりそれに対応した伝統産業を成長していく政策をとっている。中期、後期高齢者（一般）65歳（原住民）55歳からの健康対策は「外に出てきてもらう」がコンセプト。バス・電車が無料 タクシーなら1ヶ月1000元 補助しています。外に出てもらうことで健康管理を推進している。健康保険は弱者、障害者、85歳以上は無料です。高齢者には旅行補助もあるということです。少子化では、凍結卵子ができるようになっていて、1人に対して30万円の補助金を要している。季節によって3月ゆずはなマルシェ 7月原住民のお祭りなど多くのイベントを構えていますので、ぜひ遊びにきて下さい。1時間の予定であった意見交換は大幅に時間を超えて有意義な意見交換会となりました。最後は全員で記念写真を撮り終わりました。

【会談をおえて】

徐県長や陳農業部長他、花蓮県政府との意見交換会は素晴らしいものになったと考えています。まず県の東面の海岸は太平洋に面していること、温暖な気候、農業、柑橘類、漁業など高知県とよく似ている地域であることがわかりました。農業は有機農業を推進しており、三原村も四万十市も有機農業には一定の理解がある地域で四万十市は給食に四万十市

産の環境にやさしい農法で作られた食材を提供するなど、共通したものがあつたと思います。柑橘類では文旦やはっさくなどを栽培していました。日本でも文旦の話は高知でしか聞きませんが、花蓮で文旦の名前が出るとは思いませんでした。しかも瑞穂郷では分担の大産地となっていると言うものでした。宿毛市も文旦の産地でもあります。また漁業ではガツオをはじめ鯉節や鯉の出汁いりのお酒などの加工品、環境に優しく安定的に漁獲できる定置網での漁業が盛んである事と、高知県でも土佐清水市や今回来ておりませんが黒潮町などとも交流ができそうです。花蓮でも海洋深層水を採用し販売していることで、高知県室戸市の海洋深層水で交流ができそうです。また、子育て世代、高齢者世代、障害者、弱者への施策、スポーツ、少子化、教育政策など多岐に渡り、議論ができました。教育では海外留学にも力を入れていると言うことで若い世代の交流の可能性も感じたところがあります。

【2月15日富里郷公所表敬訪問 昼食会】（富里郷）

一口メモ WBC 台湾チームの多く（ほとんどが）花蓮県出身
江郷長挨拶

1ヶ月前から楽しみにしていました。日本に初めて行ったのは四国でした。海と島々を繋げる橋、山、川、海と恵まれている景色の美しい場所であると記憶に残っています。今日の歓迎場所は、高いところにあります。眼下に広がる広がる景色は、全てオーガニックで栽培しているお米の田園が広がっている地域であります。文化、観光、農作物で深い交流ができればと思っています。本日は遠路はるばるお越しいただき有難うございます。収穫のある1日にしてください。

張富里郷農会総幹事 挨拶 （日本の農協）

幡多地方の皆さんと再会ででき、大変嬉しい。富里はたくさんの製品、いい物があります。本日の懇談会は昨年一緒に幡多地方に訪問した、劉会長のハレーバラチームの皆さんとともに昼食会を行なっていますが、SDGSの推進するクラブとして提携していて4年目であるが、提携したことで、僻地のところにもサービスができるようになってきた。富里の全ての商品を農村美学に位置付け広く広めてくれている。本日の昼食会の食材は全て、花蓮県産、富里郷産のものとなっています。ごゆっくりお楽しみください。本日はご訪問有難うございます。

四万十市長

休日にも関わらず、このような素晴らしい場所で、昼食会を構えていただき有難うございます。昨年4月11日には四万十市、幡多地方に来てくださり有難うございます。その中でお米と、お酒の大産地、三原村のどぶろくとお米を堪能していただき、三原村との交流がきっかけとなり台湾訪問が実現しました。三原村田野村長には感謝しています。本日はよろしく願いいたします。

田野村長

本日は誠に有難うございます。三原村が合併もせず 136 年続いてこれたのは、お米の産地だからだと思っています。三原村は日本で初めてどぶろく特区を認定された町です。一次産業で提携しながら、6 市町村との交流をどのようにすることがいいのか頑張っています。本日は有難うございます。

*どぶろくとは、お米、米麴、水を発酵させ醪（もろみ）をこさずに創るお酒のことです。

【富里郷の農業についてディスカッション】

富里郷秘書 （富里郷 NO2 です。）

花蓮の最南端に位置し、13 村落、251 地区で人口は 9552 人でそのうち原住民は 1700 人で 18%となっている。原住民の村落は 10 集落があります。議会にも原住民族からの議員がいます。環境保護管理所も整備し、お米、花卉、しいたけという、3 つのシンボルがあって他、コーヒー、お茶も生産するなど、豊富な農産物がある。

ビジョンは 3 つ、農業推進・社会福祉基金建設・観光産業であります。社会福祉では団体保険、しあわせ保険、道路改修、新設など行います。観光では、今年のイベントとしてマラソン大会や部落演奏会などを予定しています。

張農会総幹事

出しているコーヒーは、富里で生産したコーヒと混ぜる棒は炭でできています。味がまろやかになるのでお楽しみください。

富里農業組合直産所では、富里産の農産物と食品を販売しています。お米が NO1 の売り上げであります。1 億台湾元の売り上げがある。また有機栽培のお米の加工工場もあります。農会との契約生産は 1400ha に昇っています。農会には保険機関もあります。（日本の JA と取り扱うものがよく似ています。）富里郷にあるブランドは、日本から技術移転されている、コシヒカリやいちごなどがあります。先ほどのハーレクラブとの提携で ESG を取り入れ、草と竹のリサイクル利用をしていくことで廃棄物ゼロを目指している。草（藁）と竹のアート祭が毎年この近くで行なっている。是非寄って見て下さい。もう一つ補足があります。三原村には柚子のマーマレードがあった。そこにヒントがあって台湾の企業と連携しお煎餅の上にマーマレードを塗った商品を作った。

質疑応答

台湾の中でのお米のシェアのことについて教えてほしい。（田野三原村長）

その中でオーガニックは 20%です。花蓮県の台湾全体でのお米のシェアは 40%である。

富里での有機栽培のお米は 20% で 1 チーム 350 ヘク以上、年 2 回収穫の 2 期作、有機のお米は 1500 ヘクでしかも有機栽培のお米は完売しています。

一口メモ

- ・日本の JA と取扱がよく似ている。
- ・昨年の 4 月に訪問し、柚子のマーマレードもそうですが、昼食会に出ていた、甘酒と蜂蜜の紅茶も三原村の AMAZAKE を見て作ったものと聞いた。仕事が早い。

【瑞穂郷 文旦加工搾汁工場】

瑞穂郷では文旦の特産地で有名であります。不合格の文旦が 3 割近くの残渣が出ることや、加工品を作っていく上では搾汁の活用が欠かせないということで瑞穂郷ではその利活用を目指し、新しい、搾取工場の整備をしたということで視察に行きました。新しい建物、搾汁機械などは整備されていましたが、まだ稼働していませんでしたが、視察させていただきました。とても広い工場でした。文旦の様々な加工利用推進を目指し新たな工場を整備したと言われていました。時間が限られる中の視察でしたが、有意義な視察でありました。

(富里郷公所表敬訪問昼食会・富里郷農業のディスカッション・瑞穂郷文旦加工搾取工場
お視察を終えて)

富里郷公所訪問昼食会の場所は高い所にあり眼下に広がる広がる景色は、全てオーガニックで栽培しているお米の田園が広がっている素晴らしい景色を見ながら、富里郡江郷長、(日本の村長) 昨年幡多地方にも来られていた張富里郷農会総幹事、ハーレーバラチーム劉会長他、多くの皆様の歓迎を受け、昼食をとりながらの意見交換となりました。

昼食後は富里農業組合直産所の事務所に場所を変えての農業のディスカッションを開催し、先ほど花蓮県徐県長が紹介していただいた、藁で作った、アートフェスタを視察しました。富里郷と三原村は、有機農業と食品加工品づくり、お酒でご縁があり、今回の訪問となっております。富里郷は花蓮の最南端に位置し、13 村落、251 地区で人口は 9552 人で環境保護管理所も整備し、お米、花卉、しいたけという、3 つのシンボルがあって他、コーヒー、お茶も生産するなど、豊富な農産物がある。富里郷にあるブランドは、日本から技術移転されている、コシヒカリやいちごなどがあります。富里郷は有機農業が盛んであり、台湾では富里ブランドとして台湾では有名である。その農産物で、食品加工品を作り、富里郷のお米で富里のお酒を作ること、大きい産業にしていきたいとの思いがあります。お酒を作るには酒米が必要になるということで、幡多 6 カ市町村で行くと富里郷との交流は三原村が有機農業、お酒のドブロックがあり親和性が高いと思います。次に有機農業で給食を配給している四万十市なども入るのではないのでしょうか、そこから他の幡多の市町村に波及していく交流がいいと感じました。富里郷の農会は JA と取扱の構造がよく似ておりました。花蓮県にも JA 高知県みたいな組織があるので、同じような構造かなと思いました。もう一つ加えておくべきは、昨年の 4 月に三原村で見た柚子のマーマレードを見て、台湾の企業と連携しお煎餅の上にマーマレードを塗った商品を 2 ヶ月で製造したと聞きました。

甘酒と蜂蜜の紅茶も三原村の AMAZAKE を見て作ったものと聞いた。これはと思うものを取り入れるスピードに感心しました。

瑞穂郷では文旦の特産地で有名であります。規格に合わない文旦が3割近くの残渣が出ることや、加工品を作っていく上では搾汁の活用が欠かせないということで瑞穂郷ではその利活用を目指し、新しい、搾取工場の整備をしたということで視察に行きました。新しい建物、搾汁機械などは整備されていましたが、まだ稼働していませんでしたが、視察させていただきました。とても広い工場でした。文旦の様々な加工利用推進を目指し新たな工場を整備したと言われていました。ここでは幡多地方の文旦の産地であります宿毛市と四万十市も可能性があると思います。ただ、走り走りでしたので、まずは情報収集から始めるのではいいのではないかと考えます。時間が限られる中の視察でしたが、有意義な視察でありました。

【花蓮県政府歓迎レセプション】

花蓮県政府との歓迎レセプションに出席し、花蓮県徐県長をはじめとする花蓮県政府と花蓮県在住の日本の方と交流を深めることができた。

(2月16日宜蘭県蘇澳鎮公所 表敬訪問)

- ・一口メモ 宜蘭県蘇澳鎮南方澳1927年では日本統治下の台湾の漁業を生活の生業として確立するため、土佐清水市から漁業移民が移住し漁業振興に貢献しています。

今回の視察は、昨年花蓮県富里郷等の皆様が幡多に視察に来たこときっかけとなって、高知県幡多地方から土佐清水市をはじめ、3市1町1村の5カ市町村一堂で視察に来ている。この際、土佐清水市とゆかりのある、蘇澳鎮南方澳にも訪問し土佐清水だけではない、幡多地方を含めた交流の可能性を調査しました。

宜蘭県蘇澳鎮李鎮長は、日本の高知県幡多地方から来られた皆様を心から歓迎します。として、澳鎮南方澳漁港は日本統治下の時、日本人が100%開発し、1921年建設開始1923年大正12年竣工され今でも使われている漁港です。当時、漁業もまだ確立されておらず、1927年に土佐清水市から漁業移民として125名が移住し、漁業を生活の生業として確立し、今に繋がっており、南方澳漁港は台湾で2番目の漁港となっているとして、南方澳漁港100周年には土佐清水市長いか18名をご招待し感謝の意を表し、台湾と日本は1番近いところにある。日本と関係が深く、交流を深化していくことが重要である。土佐清水市とは歴史のつながりがある。これからも将来も交流を続けていきたい。今後、土佐清水市長と会うことを多くなると信じている。と話し程岡土佐清水市長幡多にはそれぞれの地域で、得意分野がある。広域的な交流をしていきたいです。と述べられました。

李鎮長からは高知県議、幡多地域の首長、議員、が来てくれています。今後日本の自治体からの訪問が目白押しになっているとして、人と人は交流すれば、友情ができる。高知もベストフレンドになると思いますと言われました。土佐清水市と蘇澳鎮南方澳の関係から来ることが出来た、蘇澳鎮公所訪問でした。南方澳漁港での漁業移民は土佐清水市はもとより、黒潮町や愛媛県宇和島市、三瓶町などからも漁業移民が渡ったと言われています。李鎮長からも、100年前にこの地を開発してくれた日本国や漁業移民に感謝の言葉があり、100周年記念行事を開催されるにあたり、多くの新しい資料が多く見つかったと言われ、蘇澳鎮では海洋文化の保護、発展を計り、漁業文化と歴史を残す事とし、人と海の共生、共存が大切だが、形のない文化を残していくために努力していくとしています。日本でも高知大学名誉教授吉尾寛先生も高知県漁業移民の研究をしています。愛媛県でも三瓶町の方でも研究をしている方もいると聞いております。黒潮、漁業、水産業の文化、歴史、発展の交流の拡大は可能性があるものと思っています。そういう意味で私は土佐清水市と共に幡多地方の他の2市1町1村の首長が揃って訪問したことが大きなインパクトを与えたと思っています。土佐清水市長は日本に帰って吉尾高知大学名誉教授と会い漁業移民の勉強会を早速予定するなど、まずは土佐清水市を中心に交流を深化させ、幡多地域のそれぞれの得意分野を活かした広域的な交流に繋がっていくようなになればと思います。

【台北城市科技大学訪問】

*土佐清水市とインターンシップ交流を続けている。

台北城市科技大学は、土佐清水市とは2016年産学連携のインターンシップ実習協定を結び、本大学の商学部応用外国学科から、実習生を延べ、31名を送り込んでおり、実習場所

は温泉旅館、ホテルなどで実習しながら、インスタなどで観光スポットを紹介し、台湾での PR をし、多角的な価値の発展を実践しているところです。今回は、土佐清水市で実践しているパートナーシップ交流を、実習と観光、文化、教育等、あらゆる分野で幡多広域で貴大学とパートナーシップを構築していけないか調査することを目的としている。

台北城市科技大学の説明では学生 9000 人在籍。クロス分野の人材育成を強化している。

国際交流では、日本、欧米、ニュージーランド、韓国の大学と連携し、学術、学習交流を推進しており、国際協力のさらなる拡大を目指しており、日本へのインターシップは北から南まで多くの学生を派遣している。産学連携では企業と協力し、実践的交流を重視している。と話し、茨城県笠間市では短期ではあるが秘書係、観光課に派遣し、笠間市の広報や台北観光部とも連携し、行政機関へのインターシップを強化し、日本と台湾の交互の教育交流も行なっていくと話しておりました。その後の意見交換では主に、自治体での受け入れや、日本と台湾の学生との短期、中期、長期の交互の留学の可能性について議論し、茨城県笠間市長は 2 回も台北城市科技大学を訪れるなど、お互いの交流を活かし学生の自治体の受け入れの枠を増す事で可能ではないかと議論しました。幡多 5 ケ市町村の首長と一緒に訪問してできた、意見交換はとても有意義なものとなり。幡多広域でのインターンシップの相互交流にきっかけになるものではないかと感じました。

【2 月 17 日 台湾日本関係協会表敬訪問】

最終日は、陳外交領事のお迎えを受け、「台湾日本協会、蘇会長に代わり歓迎します。」として、丁寧に幡多 5 ケ市町村の皆様のお話を聞いていただきました。

中平市長 四万十市長（団長）

ありがとうございます。幡多 5 カ市町村三原村と畠里郷、土佐清水のインターシップ、漁業移民、有意義な意見交換ができました。台湾、日本はお互いに近い国であります。お互いがスキル・アップできるのではないかと思います。花蓮県では山が崩れ、雪が降っているのではないかと思います。幡多地方の方でも南海トラフ地震が来れば津波高 30m 以上で大きな災害となることが予想されている。防災についても共有できるのではないかと思います。

程岡土佐清水市長

台北城市科技大学からインターンシップが毎年派遣されて来ている。宜蘭県蘇澳鎮南方澳には漁業移民として 125 名の土佐清水市民が移住してきている。その地域に子孫も残っているのではないかと思います。蘇澳鎮公所では漁業指導において、感謝の、歓迎を受けました。今後も交流を続けていきたいと話されました。

中平宿毛市長

私共の宿毛市も柑橘類がとても有名な産地である。花蓮県瑞穗郷で文旦加工施設を視察、同じものを作っている同士で交流ができれば良いのではないかと思います。花蓮県徐県長

とも共有させていただいている。

田野村長

富里郷農会と、有機農業栽培、食材加工品、お酒、などで深い交流ができればと思っています。また花蓮県・高知県は森林率で花蓮県 87%、高知県 84%と、とてもよく似ています。これからも交流できればと思います。

今宮副町長

大月町は農業では、葉タバコ生産、林業分野では町内に多く生えている、うめがしの木を使い備長炭を生産、水産業では本マグロの養殖をする事業者が 4 社あり、大月の魚として PR に励んでいる。

また、それぞれの市町村の議長も今回の訪問視察をお話しされ最後に陳外交領事が今後の交流がより良きものとなるよう祈念いたします。と締められ、台湾での全日程を終えることが出来ました。

視察を終えて

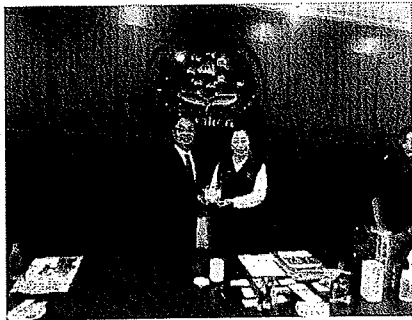
台湾で 1 番有名な日本人八田與一の先生は高知県佐川町出身の広井勇先生、戦前台湾で大きな商いをしていた、鈴木商店の大番頭は高知県仁淀川町出身の金子直吉であります。

また李登輝元総統は坂本龍馬が好きで何度も高知にきています。高知県と台湾はとても縁の深い地域であると思っています。今回は幡多地方の 5 ケ市町村の首長はじめ、19 名の訪問視察団の一員として来ることが出来ました。きっかけは三原村と花蓮県富里郷の交流関係もあり、昨年花蓮県から幡多地方に視察訪問に来てくれ、交流が深まりました。

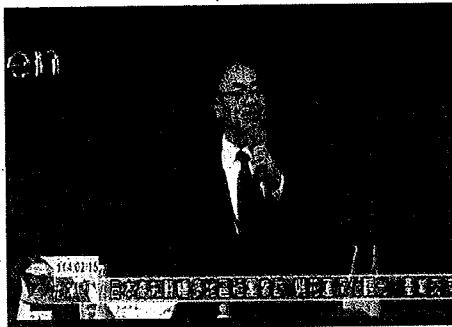
また、土佐清水市は漁業移民として宜蘭県蘇澳鎮南方澳との交流、北城市科技大学とのインターンシップ交流があり、幡多地域が広域的に連携することで台湾での交流が、観光交流、経済交流、文化交流を活性化することで、友好交流の拡大や経済交流を発展させることを目的に視察、調査をしました。花蓮県について思ったことは、高知県にとってもよく似ていると思いました。まず太平洋に面している事、黒潮に接岸していること、

森林率が 80%以上である事。第 1 次産業が盛んなこと、農業、漁業、柑橘類の栽培が多く高知にとってもよく似ています。また、海洋深層水を採取しているなど、これからは、有機農業、お酒、観光を軸に成長を考えていること。幡多地方の方も、漁業、農業、お酒などでとても親和性があり、相互交流していくことでどちらも発展していく可能性があるものと感じました。また、別の目線でインフラ整備や公共交通、高齢者福祉、教育など多面的にも話すことが出来ました。それぞれの課題や今、対策を行なっていること、そして未来のこと、子供達の次世代の事、まさにそれぞれが、胸襟を開いての意見交換となり、多くの場所を視察しましたが、まさしく未来志向での訪問、視察となったと思います。幡多地

方が今後とも交流を図ることで、素晴らしいものになって来るのではないかと確信したところ。高知県は側面支援というような関係を作り、最後には花蓮県との交流が進化していくことが出来るようになればと思いました。引き続き研究、調査していきたいと思っています。高知県の発展、振興のために今後も頑張ってまいります。以上幡多地区台湾視察訪問参加報告とさせていただきます。



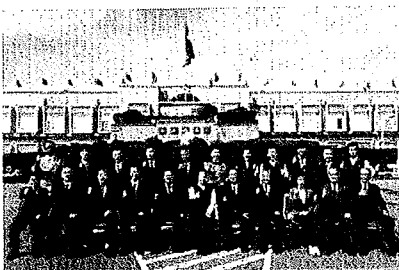
花蓮縣徐縣長と



花蓮県の地元ニュース地元新聞

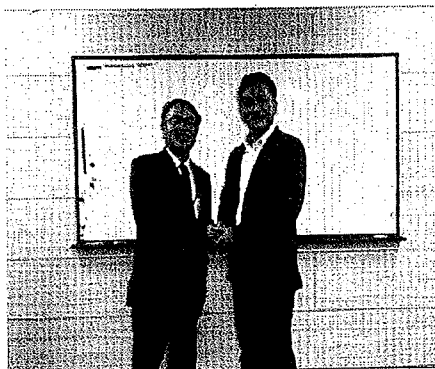
日本高知縣幡多訪問團 與花 蓮深化觀光與產業交流

2025-02-15 地方

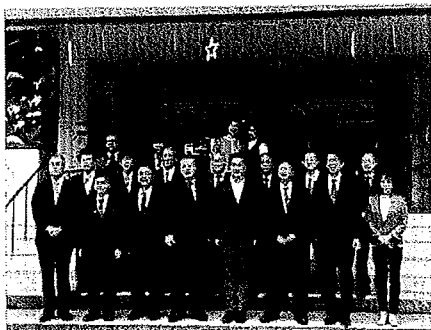


日本高知縣幡多訪問團由高知縣四萬十市長中平正宏帶隊拜會花蓮縣政府，此行不僅加強兩地的友好關係，更展現花蓮積極推動國際合作的決心。(花蓮縣政府提供)

地元新聞



宜蘭縣蘇澳鎮李鎮長と



宜蘭縣蘇澳鎮公所前



台北城市科技大学



富里郷にて



台湾日本関係協会